

2018
February

2

VOL.8

ガバナー一月信

▼ Contents

ガバナーメッセージ	1
米山記念奨学生選考会報告	2
2018年国際協議会参加報告	3
社会奉仕活動報告書	5
2月地区の予定/新会員/訃報	6
会員数及び出席報告	7
コーディネーターニュース	8
ハイライトよねやま	9
文庫通信	11

2017-18 Rotary International District 2560

Rotary



国際ロータリー第 2560 地区 2017-2018 年度
新保ガバナー事務所

〒951-8053 新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F

TEL:025-222-2561 FAX:025-222-2565

E-MAIL k.shinbo@rid2560niigata.jp





「平和と紛争予防/紛争解決」

2017-2018 年度 ガバナー
新保 清久 (新潟万代RC)

ロータリーは、戦略計画で3つの戦略的優先項目と6つの重点分野を定め、世界全体で、できるだけ大きな活動成果をもたらす努力をしています。

「平和と紛争予防/紛争解決」は、ロータリーが取り組むべき重点分野の一つです。紛争や迫害により6千万人が難民となっている現在、平和のために活動する人材が必要です。ロータリー平和センターでは、紛争の予防や解決に必要な専門的スキルを教え、長期的な平和構築のために活躍できる人材を育てています。年間100名のフェローに平和センターで学ぶためのフェロシップ（奨学金）も提供しています。

2002年以來、平和構築の分野にキャリアを志す1,000名以上のフェローが平和センターで学び、その多くは国連や世界銀行等の国際機関、NGOでリーダーシップを発揮しています。ガバナーノミニーとして2016年6月に国際基督教大学の東ヶ崎潔記念ダイアログハウス国際会議場で開催されました第14回ICUロータリー平和センター年次セミナーに出席した際の様子を報告します。

ちなみに、東ヶ崎潔氏は、ICU初代理事長で、日本人初の元RI会長です。

13期の卒業生7名（8名中）の学生から研究発表がありました。

発表者は、スリランカ、スペイン、アメリカ2名、インド、台湾、イギリス出身者。

- ① スリランカの民族間宗教紛争がもたらした内戦を分析して平和の可能性を探る研究
- ② コロンビアにおけるトップダウンの平和構築の危うさを指摘する研究
- ③ アメリカミズリー州セントルイスにおける黒人、ラテンアメリカン、インディアン、英語が第2言語の人や障害者に多い事例研究・・・停学処分を受けた生徒は、刑務所に行く確率が高い（学校から刑務所へのパイプライン）
- ④ インドの対立住民間暴力と呼ばれる民族/宗教紛争、（ヒンズー、イスラム、キリスト、シーク教徒間の対立、武力衝突）の研究
- ⑤ タイの厳しい性産業規制の影響、セックス産業の権利擁護、フェミニストの考察
- ⑥ インドで女性が離婚するとホームレス、路上生活者となる社会的、政治的な考察
- ⑦ 女性のエンパワーメントの複雑さと言葉の意味を明確にする必要性について

中には、世界平和につながるのかと個人的には、思うような研究テーマもありましたが、ロータリーが平和センターを設立して、世界中の地域社会（コミュニティー）で起こる諸々の紛争、対立を改善、解決するスキルを備えた人材の育成を通じて平和な世界づくりに貢献しようとしていることを知りました。

日本のロータリアンは、平和センターに毎年一人当たり15円ずつ支援しています。

私たちは、平和センター、平和フェローを支援することで確実に世界平和に貢献しています。



「米山記念奨学生選考会報告」

米山記念奨学委員会
奨学生選考委員長
若山良夫（新潟南RC）

1月13日、記録的な大雪の中、2018学年度米山記念奨学生選考会が万代シルバーホテルにて行われました。今年は51名の応募中、18名採用（どちらも海外応募を含む）の予定で選考が行われました。

選考は書類選考と面接選考があり、まずは12月に50名分の書類選考を行いました。書類審査は、指導教員からの熱意・研究内容・日本留学の目的や熱意・将来性などを評価します。しかし、本人に会って見なければ本当の評価は出来ません。ですから、面接は非常に重要な事業となります。

面接当日は2日前からの大雪の影響で遅刻者が続出するかと懸念されましたが、一人の遅刻者も無く無事開始を致しました。面接は個人面接と集団によるグループディスカッションの2種類を行います。個人面接では日本留学の目的・将来の目標、ロータリーへの関心度、人柄、コミュニケーション能力を評価します。グループディスカッションでは、当日に議論のテーマを与え、グループの中から司会・書記・発表者を選出し、ディスカッションをしていきます。ロータリアンは一切の助言をせず、彼らの行動と発言を見聞きし、学生の評価をしていきます。ここでは、個人面接では判らない学生の性格が垣間見えます。



全ての面接が終了し合格選考会に移行します。書類審査と面接審査による総得点に加えて、国別・大学別のバランス、さらに米山奨学生としてふさわしい活動を今後もできる人物かを踏まえて熱い議論が繰り広げられました。学生は本国でも大学を卒業し、母国語の他に日本語はもちろん、場合によっては他に1、2か国語を話せる学生も多くいます。また、明確な留学目的を持ち、将来を大きく期待させる学生も居ます。そのような非常に優秀な学生の中から18名を選考しなければならないのは、面接官にとっても大変心苦しい事業でありましたが、慎重審議の末、2018年度の奨学生18名が決定いたしました。どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まります。結果として米山奨学の理念に合致した学生を選出できたと思っております。この学生たちは今後各カウンセラーとクラブのお世話になります。学生たちが多くの知識を有するロータリアンと交流しながら様々な経験と知識を得て、将来日本と世界との懸け橋となって国際社会で活躍する人物となる事を心から祈念しています。また、ロータリアンの皆様には、今後とも米山記念奨学生と奨学事業へご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げまして、選考会の報告を終わります。

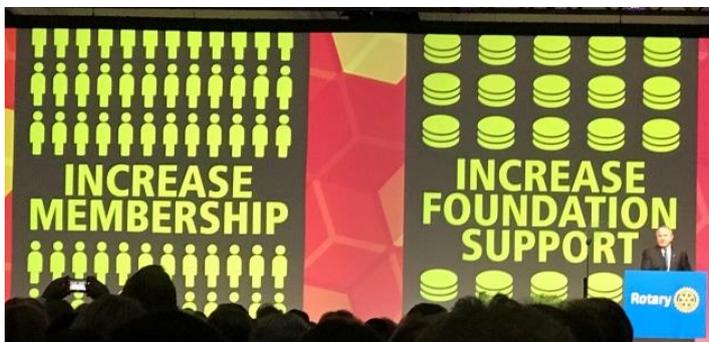
面接官にとっても大変心苦しい事業でありましたが、慎重審議の末、2018年度の奨学生18名が決定いたしました。どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まります。結果として米山奨学の理念に合致した学生を選出できたと思っております。この学生たちは今後各カウンセラーとクラブのお世話になります。学生たちが多くの知識を有するロータリアンと交流しながら様々な経験と知識を得て、将来日本と世界との懸け橋となって国際社会で活躍する人物となる事を心から祈念しています。また、ロータリアンの皆様には、今後とも米山記念奨学生と奨学事業へご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げまして、選考会の報告を終わります。



「2018 年国際協議会参加報告」

国際ロータリー2560 地区
ガバナーエレクト
川瀬 康裕 (三条RC)

1月14日(日)から1月19日(金)カリフォルニア州サンディエゴで開催された2018年国際協議会に参加してまいりました。全世界534地区から、2018-19年度ガバナーエレクトとそのパートナーが集い、国際ロータリー会長エレクトの年度テーマ講演を聴き、リーダーの方々の講演を聴きました。本会議は1000人以上が一同に集まり講演を聞いたあとに、そのテーマにそって、日本国内34地区のガバナーエレクトが

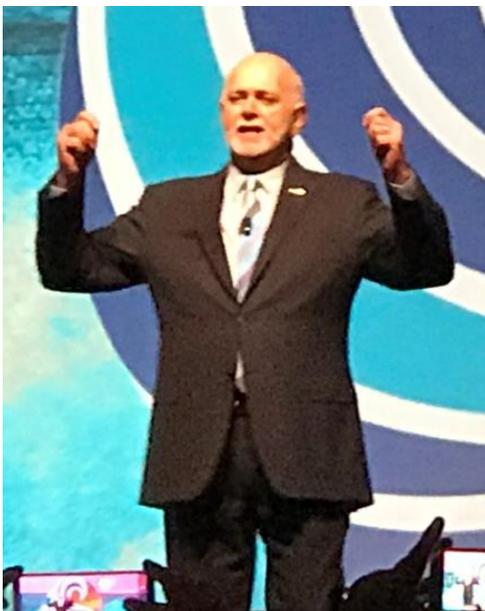


2グループに分かれ、分科会で相互の意見交換、アイデア発表し、理解を深めました。プログラムは7時半の朝食、午前本会議と分科会、12時30からの昼食、午後からの本会議、分科会、19時からの懇親夕食会の繰り返しで1週間ホテルに缶詰状態でした。

初日1月14日には2018-19年度テーマ発表がありました。二日目は参加国国旗紹介のあと、「ビジョンを掲げて導く」と題して会員増強をテーマとした講演と分科会でした。夜は会長主催晩さん会、記念写真撮影を行いました。三日目は「未来がやってきた」と題して、ローターアクターなど若い人達をロータリーに受け入れる方針の講演と分科会でした。夜は参加者が民族衣装を着てグランドマーチでした。四日目は「私たちの財団の不思議な力」と題



してロータリー財団について、五日目は「世界にロータリーを伝えよう」と題して公共イメージの向上について勉強しました。新しい試みとして国際ロータリー理事を囲んでガバナーエレクトとの懇談会が「リーダーとの対話」と題して開かれました。夜は「カリブの夕べ」で気楽にダンスを楽しむ懇親会でした。最終日はハンブルク国際大会の紹介と、「変化を描く」のテーマで今後の戦略計画についての説明と協議会で学んだことを地区に戻って実践する計画について話し合いました。



ロータリアンは世界の人々に気づきとやる気を引き出す人になりましょう” be the inspiration” 「インスピレーションになろう」と訴えられました。

会長エレクト、バリーラシン氏はアメリカの大学で教育を受け、病院経営などをなさった人です。カリブ海に浮かぶバハマ諸島という小さな国に生まれました。国土全体が海拔2mしかなく今後50年で海に沈むかもしれない国だと語られました。ある日海岸に立ち海の向こうには言葉も違う人々がいる、世界中の人々は海で繋がっているんだというインスピレーションを受けたそうです。困難と思えることでも夢と希望を持って行動し続けることで必ず協力してくれる仲間ができる。ロータリアンはポリオ撲滅にあと一歩まで進んだ。今世界で地域で直面する多くの課題にも勇気を持って立ち向かい、



「社会奉仕活動報告書」



田上あじさいRC
会長 細井 廣行

第 2560 地区内で最も会員数が少ないクラブですが、自分たちでもできる活動をと
いうことで「さわやかドライブ」という社会奉仕活動を全員でとりこんでいます。

もともとはスポンサークラブである加茂クラブが長年実行している「一人暮らしの
お年寄りの為の一日ドライブ」に参加協力を求められたのがきっかけでした。
会員減少で活動が停滞していた時期でしたので、少しでもお手伝いできればと参加
させていただきました。

合同で行事を行うことで経費の面など助かりましたが、スケジュールの都合や田上地区から
も参加希望が多かったことから四年前より単独で開催させてもらっています。

日頃自宅に籠もりがちなお年寄りの方々に、一日中ゆっくり
とさわやかな空気と景色とを満喫していただき、明るい笑顔と
活発なおしゃべりをとの主旨ですので行程も余裕をもたせ、参
加規模も我々の能力にあわせて20人限定という身勝手な日帰り
ドライブです。



マイクロバスの中ではメンバーがにわかガイド役を務めたり
と、一緒になって楽しみます。

最近では帰ってくるなり来年の予約をしていく人がいたり、
街中で声をかけられたりすることもあるので、参加してくれ
た方は少なからず喜んでいただいているのだなと実感してい
るしだいです。

心がけていることは無理をしないこと。

楽しいことはエスカレートしてゆきますから、次はもっと遠くまで
行こうとか一泊にしようとかの案も出てきますが、なんせメンバー
が少ないのですから、まずはメンバー全員が無理なく楽しめること
が大事と考えています。

年間の行事に追いまわられることなく、今から「さて来年はどこ
へゆこうか。」

なんて会話をしながらお昼を食べるのがまた楽しいのですよ。



2月地区の予定 【平和と紛争予防／紛争解決月間】

2018年2月		地区主要行事	会場
4	(日)	米山財団設立50周年記念式典	グランド日航東京お台場
10	(土)	地区諮問委員会・国際協議会報告・地区リーダー研修セミナー・川瀬年度第2回地区運営会議	ホテルオークラ新潟
11	(日)	2018年2月一年交換学生オリエンテーション	クロスパル新潟
17	(土)	ロータリー財団セミナー・補助金管理セミナー	ANAクラウンプラザホテル新潟
		インターアクト台湾研修旅行オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
24	(土)	社会奉仕委員会セミナー	ホテルオークラ新潟

新入会員 紹介 (敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	職業分類
中条	五十嵐 和彦	2018.1.10	(株)グリーン楡形	造園業
三条南	金井 佐也子	2018.1.15	(株)髪結一門 金井屋	美容師
三条南	田中 康之	2018.1.15	つばさ代行	運転代行
雪国魚沼	駒形 幸貴	2018.1.1	(株)進栄工務店	建築業
津南	風巻 宏行	2017.12.25	(株)綿屋旅館	旅館
糸魚川中央	渡辺 祐紀	2018.1.1	糸魚川こどもクリニック	小児科医

訃報

新潟RC 柴田 史郎 様 ご逝去日：2017年12月15日

吉田RC 古井 辰禧 様 ご逝去日：2017年12月24日
(株)マックス 代表取締役 2008-09年度アシスタントガバナー

糸魚川中央RC 能登 保 様 ご逝去日：2017年8月3日
糸魚川中央RC 初代会長・名誉会員

糸魚川中央RC 木島 長右工門 様 ご逝去日：2017年12月12日
(株)あぶらや木島商店

心よりご冥福をお祈りいたします。

第2560地区 2017-18年度 12月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	12月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	/	86.58	364	381	37	17
新発田	3	95.45	93	98	0	5
村上	3	88.16	37	38	9	1
水原	4	75.76	27	27	0	0
中条	4	90.97	34	36	3	2
新発田城南	3	84.48	41	42	4	1
豊栄	4	87.00	26	27	3	1
新発田中央	3	88.19	45	49	5	4
中条胎内	4	84.72	33	36	7	3
村上岩船	3	84.52	28	28	6	0
第2分区(9クラブ)	/	85.52	441	451	20	10
新潟	4	94.62	86	92	0	6
新潟東	4	87.73	62	59	8	-3
新潟南	4	87.25	99	105	2	6
佐渡	3	95.20	7	7	0	0
新潟西	3	71.50	41	39	1	-2
佐渡南	3	87.61	41	42	4	1
新潟北	3	75.49	43	43	0	0
新潟中央	3	93.33	24	25	0	1
新潟万代	4	76.92	38	39	5	1
第3分区(6クラブ)	/	73.23	122	119	7	-3
新津	3	70.37	18	17	0	-1
村松	4	97.73	11	10	0	-1
五泉	3	66.66	17	15	2	-2
白根	3	79.04	37	36	2	-1
新津中央	4	72.59	29	31	2	2
阿賀野川ライン	3	53.00	10	10	1	0
第4分区(11クラブ)	/	76.17	368	368	21	0
三条	3	91.23	57	60	0	3
燕	3	65.59	33	34	1	1
加茂	4	84.81	29	27	4	-2
三条南	3	85.51	48	46	2	-2
分水	4	70.69	31	30	3	-1
見附	3	72.00	20	21	1	1
吉田	3	76.80	33	30	2	-3
三条北	4	74.62	64	65	2	1
巻	4	82.10	14	15	0	1
田上あじさい	4	62.50	7	8	1	1
三条東	3	72.02	32	32	5	0

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	12月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	/	87.61	314	323	22	9
長岡	3	88.88	39	45	0	6
柏崎	3	91.67	45	45	0	0
長岡東	3	82.25	66	70	5	4
柏崎東	4	89.74	50	49	4	-1
栃尾	4	94.52	21	21	0	0
長岡西	3	81.41	57	57	5	0
柏崎中央	3	84.81	36	36	8	0
第6分区(6クラブ)	/	83.09	154	157	11	3
十日町	3	97.05	34	34	3	0
小千谷	3	75.60	38	39	5	1
雪国魚沼	3	70.20	25	26	2	1
十日町北	3	98.61	23	24	0	1
津南	4	80.87	27	27	1	0
越後魚沼	3	76.18	7	7	0	0
第7分区(8クラブ)	/	85.84	320	329	29	9
高田	4	98.80	66	66	0	0
直江津	3	87.01	48	51	4	3
新井	4	86.67	29	31	3	2
糸魚川	3	94.55	42	43	3	1
高田東	3	78.95	38	38	3	0
糸魚川中央	4	82.35	34	33	0	-1
頸北	3	80.90	14	15	1	1
越後春日山	3	77.50	49	52	15	3

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,083	人
12月末 会員数	2,128	人
女性会員数	147	人
純増減会員数	45	人
当月平均出席率	82.58	%



■1月14日からアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで国際協議会が開催されました。

世界全地区から539地区、日本の34地区のガバナーエレクトとパートナーが一堂に会し、来るべき新しい年度に向けて研修を重ねました。パリー・ラシン国際ロータリー会長エレクトから発信された力強いテーマをしっかりと胸に受け止め、新たなロータリーの世界に思いを馳せておられることでしょう。

私たちロータリアンは、会員基盤を強化し、柔軟なクラブ運営をすることにより、より多くの理解者を増やす必要があります。ロータリーの素晴らしい理念を一人でも多くの人々と共有し、私たちが目指す究極の世界平和を手になければならないからです。また、理念を求めると同時に行動もしなければなりません。皆様方お一人おひとりがロータリーの伝道者であります。ロータリーが活性化する、そのことのために更なる歩みを進めて頂きたいと思えます。

国際ロータリー 理事エレクト 三木 明

■柔軟性は会員増強の救世主になりうるか？

ご存知COL16においてクラブ運営に関する諸規定が従来のそれと劇的に変革を遂げた事は記憶に新しい。それも世界的に見て停頓気味の会員増強を強力に押し進めるため、又、ロータリー活性化の基盤である魅力的・効果的クラブ作りのために柔軟性導入はRIがまとめた最善の手段であろう。

①：柔軟性導入後の影響

昨秋本邦全クラブに実施したアンケートの結果、柔軟性導入したクラブは全体の23%、導入予定18%、従来の運営踏襲が半数を越え53%、導入しないが6%という数字が出た。しかし、某クラブのように例会回数を月2回に減らしてみたら、ヤッパリ毎週例会が良いということでも早くも元に戻したケースもあると聞く。一方、世界ではRIが2016/7/1、即ちクラブに柔軟性導入推奨開始時点の会員数は1年経過の昨年同時期と比較したら約5千人減の120万人強であった。これから推察すれば柔軟性導入は現時点で世界も日本も会員増加に貢献しているとは言えない。

②：過去の増強について

日本での新会員は一般的に以下の手続き「探し出す、紹介する、入会を勧める、入会させる、導き・情報を伝達する、参加させる、研修する」を経て入会し、理念を伴った優秀なロータリアンに成長してきた。増強とは文字通り「会員を増やし、クラブを強くする」事だ。初めから柔軟性と言う概念はクラブにも新入会員にもなかったのは事実であろう。

③：今後の増強について

増強は組織維持のため永遠の課題である。基本的にロータリーは他の奉仕団体と違うことを強調し、合わせて日本独自の慣習・考え方に則り進めるのがベスト。しかし、いつまでも過去の理論に固執し、世界の流れ、時代の流れ、社会環境の変化への対応が遅れないようにすべきだ。RIは柔軟性と言う画期的な概念を提案し、導入を推奨し、変革を促しているように我々もこれを日本流に改変し、応用し、増強に活用する時期が来たようだ。とは言っても増強への王道はクラブ会長と会員が丸となって汗を流す事に尽きると思う。

第3ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 伊藤文利(D2690,倉吉RC)

■各地域社会でのロータリー広報・公共イメージ活動

ロータリーの公共イメージの向上を図るために、ロータリーにはロータリアンやその活動の恩恵を受ける地域社会の人々との間に心温まる感動や感謝のストーリーが沢山あります。それをよりシンプルに、一貫性のある形で伝えていくことが大切です。そして、ロータリーの活動の成功例をマスメディアや地方自治体などに紹介できるよう、ロータリー公共イメージ向上に向け、地域に適したアプローチを促進することです。

ロータリーの公共イメージ向上に必要なことは何でしょうか。

ロータリーとは何か。ほかの団体とどう違うのか。なぜロータリーが必要なのかなど、ロータリーを人々に伝える方法を考え直す必要が生じています。

今、私たちがなすべきことは何でしょうか。

すべてのロータリアンがロータリーの一人として自覚と誇りを持って行動を起こすことだと思います。四つのテストに照らしてみましよう。

コミュニケーションをする際にロータリアン各自がロータリーの理念を守り、活動を推進して、ロータリーの目的を効果的に伝えることが重要です。

例えば、2730地区の私が所属している鹿児島西RCでは1965年からクラブ独自に定めた表彰制度で社会の目立たないところで誠実に継続的に意義のある社会奉仕活動を続けている個人あるいは団体を顕彰するためのロータリー賞を創設し、毎年のクラブ創立記念日例会で表彰を行いその活動を紹介しています。マスコミも表彰式には毎年取材をしてロータリー賞について報道します。

少子高齢社会の現在、地域には自治体やNPO法人などと共同で行うことができ、地域が必要としているプロジェクトが沢山あります。既にそれぞれのクラブが独自の奉仕活動を展開していますが各クラブの活動がロータリーの活動として認識してもらうためには、ロータリーの理念とRI戦略計画をよく理解し、統一されたロータリーのイメージで情報を発信することが各地域社会でのロータリー広報・公共イメージ活動が効果的なものになると思います。

第3ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 山下皓三(D2730,鹿児島西RC)



第3代よねやま親善大使を募集します！

「よねやま親善大使」は、日本全国のロータリー地区大会・セミナー・例会などで、米山学友の代表としてスピーチすることにより、当事業への理解を広める活動をしています。これまでに、初代2人、第2代3人の計5人が選任され、このたび、「第3代」よねやま親善大使を大募集します。対象となるのは、日本国内在住の

米山学友（2018年6月終了者含む）で、任期は2018年7月からの2年間。応募締切は、2月19日（当会必着）です。詳しくは、当会ホームページの「News & Topics」欄からご覧ください。皆さまの地区・クラブでお世話いただいた学友で適任の方がいれば、ぜひご推薦ください！（学友ご本人からの応募が必要です）

2018-19年度地区米山記念奨学委員長セミナー開催報告

12月7日、次年度の地区米山記念奨学委員長を対象とした第1回セミナーを開催しました。

午前には、小沢一彦理事長からのあいさつに続いて、第2720地区前委員長の秋吉実氏による講義「委員長を経験して気付いた米山事業の魅力と可能性」と、第2800地区委員長の久保章宏氏による事例報告「理解促進から寄付増進へつなげる」、続いて午後は、テーマ別のグループディスカッションや質疑応答、選考・学務委員の井原實氏からの講評など、盛りだくさんの内容で行われました。アンケートでは、「初参加だ



ったが学ぶことが多かった」「地区では聞けない米山活動について多くの課題解決のヒントが得られた」などの声をいただきました。第2回セミナーは、6月15日に開催予定です。

寄付金速報 — 今年もよろしくお願いたします —

12月までの寄付金は前年同期と比べて5.7%増（普通寄付金：0.9%増、特別寄付金：7.6%増）約4,900万円の増加となりました。7月からの累計寄付額が約9億円と、引き続き好調を維持しています。

「2017年度 下期普通寄付金のお願い」を当会から、また、ガバナー事務所経由で全クラブ

へ配信しました。普通寄付金は当会事業の重要な安定財源であり、国内全クラブから普通寄付の確約をもらうことを条件に、財団法人設立の許可を得た経緯があります。当事業は全地区が参加する「多地区合同活動」であることをご理解いただき、今年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

さまざまな寄付のカタチ

高崎北RCの故藤井秀久様（第24回米山功労者メジャードナー）の奥様から、12月に500万円のご寄付をいただきました。藤井様の娘婿にあたる樋口哲雄様（高崎北RC）にお話を伺いました。

義父は、家族、会社の次にロータリーが来るほど、熱心なロータリアンでした。生前、米山への寄付にも熱心だった背景には、家が貧しく高校に進学できなかったため、「向学心に燃える若者を支援したい」との強い思いがあったようです。その遺志を汲み、義母は「教育に関わる団体に遺産を寄付したい」と、このたび財団と米山に同額を寄付しました。入会歴の浅い私も、義父の遺してくれたロータリーとの縁を大事にしていきたいと思ひます。

台湾米山学友会が総会を開催



12月2日、台湾米山学友会の総会が開催され、日本からロータリアンら41人を含む、計150人が集まりました。今年は同学友会の社団法人設立20周年の節目を迎え、当会小沢理事長を含む役員も多く参加しました。

総会では、歴代理事長、および当会役員への感謝状贈呈や新会員の歓迎セレモニーのほか、陶芸家として活躍する学友・張義明^{ツァンイーミン}さんの作品のチャリティオークション、各種演奏が披露さ

れ、学友会が支援する日本人奨学生も流ちょうな中国語で日頃の感謝を述べました。

同学友会では呉憲璋^{ウーシェンツァン}会長のもと、さまざまな改革が行われており、毎年発行している会報にはより多くの学友が編集に関わったほか、扶輪米山会のシンボルマークが一新され、マークをかたどったピンバッジが全員に配られました。総会の記念品、ミニチュア自転車の置物は、同学友会が支援する台湾彰化刑務所で作られたもの。呉理事長は「時代を物語るレトロな自転車が当時から現在へ辿り着き、ロータリーを象徴する歯車からの原動力を受け取った私たちが、これから将来へ向けて駆動していきたいとの思いを込めました」と、語りました。



秋の叙勲で学友が旭日小綬章に輝く

平成29年秋の叙勲受章者が発表され、外国人叙勲としてなんと2人の学友が旭日小綬章に輝き、12月にそれぞれ日本の在外公館において勲章・勲記の伝達式が行われました。

 朴明欽^{パクミョンギム}さん（韓国／1983-85／京都東山RC）、元・釜山韓日文化交流協会理事長。日本・大韓民国間の友好親善及び相互理解促進に寄与。



“同志社大学の修士課程で学び、さらに博士課程まで進むことができたのは米山記念奨学会のお蔭だと存じております。韓国では大学教育や学問研究を中心にしながらも、日韓両国の相互理解と友好親善を図るため両国交流団体にて社会活動を続けています。日本での留学の際、貴奨学金を頂いたこと重ねて御礼申し上げます”

 ジャンチブ・ガルバド^{ジャンチブ・ガルバド}ラッハさん（モンゴル／1998-99／山形北RC）、新モンゴル学園理事長。モンゴルにおける日本式教育普及及び日本・モンゴル間の相互理解促進に寄与。



“私は、皆様方への感謝を胸に恩返しをしたい一心で努めてきただけですので、この章は皆様方のものです。この勲章を受章したことで新たな活力がわいてきました。これからもみなさまへのご恩を倍々返しできるように力の限り努力していきます。どうか温かく見守ってください”

ご寄付の確定申告用領収書について



昨年1年間（1～12月）に特別寄付をしたすべての方、もしくは普通寄付金の領収証を申請したクラブには、1月末日までに（確定申告に間に合うように）、認定証の写しが付いた申告用領収証をロータリークラブ宛に送付します。

平成30年1月25日

ガバナー各位

ロータリー文庫運営委員会
委員長 大塚信郎

拝啓

新春の候、貴ガバナーはじめスタッフの皆様には益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。また常々文庫へのご協力を心から感謝致しております。このたびは、下記9点をご紹介しますので「ガバナー月信」にご掲載下さるようお願い致します。なお今後ともご活躍とご成功を心からお祈り致しております。

敬具

追伸 下記ご掲載の場合は〔申込先〕もご記載下さるようお願い致します。

文庫通信 (364号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

資料より

- ◎「純粹親睦」 佐古亮尊 大村北R.C. 2011 2p
(回首原点-ロータリーの心を尋ねて(その7))
- ◎「ロータリーは思想である」 佐古亮尊 大村北R.C. 2016 6p
(回首原点-ロータリーの心を尋ねて(その8))
- ◎「なぜ私たちは他人に親切にするのであろうか」 富田英壽 2017 2p
(ロータリーの心をたずねて)
- ◎「基本に戻って、魅力あるロータリーに」 富田英壽 2017 5p
(ロータリーの心をたずねて)
- ◎「ロータリーはどこへ? -ロータリーの目的と自分の人生の目的のベクトルを合わせる生き方」 刀根莊兵衛 2017 3p
(夢を語り、現在(いま)を刷新)
- ◎「ロータリーとは?」 鈴木一作 2018 4p (D.2800月信)
- ◎「ロータリーと持続可能性」 吉田雅俊 2017 1p (D.2580月信)
- ◎「柔軟性導入は会員増のソリューションなのか?」 小船井修一 2018 9p (D.2840月信)
- ◎「五つのテスト?」 玉井清治 2017 1p (D.2510月信)
〔上記申込先: ロータリー文庫〕

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日